



第 20 号
平成 17 年
7 月 発行

夫婦漫才（めおとまんざい）

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 渥

「いらっしやいませ」 「こんばんは」

というやりとりで始まる漫才という芸は、原則的に二人の会話によって成立しています。同じ話藝でも落語のようにすべてが個人の恣意にゆだねられるというわけにもいきません。漫才のコンビは、夫婦であったり、兄弟であったり、師弟であったりする例も少なくないが、当然の事ながら赤の他人というのが一番多いでしょう。

そうしたコンビが、舞台上では一見して、ごく円満に意志の疎通がとられているように映って見えます。それまでに払っている努力は、その芸を享受する側の想像をはるかに超えているのが普通です。漫才という芸は、ある意味でコンビ同志の熾烈な闘いでもあるから、おのれの身をすり減らすエネルギーを芸に転化していかねばならない宿命を背負わされていると言ってもいいでしょう。夫婦や兄弟といった肉親の漫才コンビが長続きしていることには、こんな事情もひそんでいるので、これはやはりたがいの愛情が、漫才の芸の過酷さを解きほぐす知恵によるものなのでしょう。

この世にどれくらい数の夫婦がいるのかは知らないが、全ての夫婦の会話は、第三者から見れば漫才のようなものだと思います。「何いってるの、ウチなんか喧嘩ばかりよ」とか、「ウチの旦那なんか殆んど口きかないわよ」という方々もいるでしょう。しかし、どんなに会話の少ない夫婦でも、朝起きれば「おはよう」「いってらっしゃい」「いってくる」、帰宅をすれば「お帰りなさい」「ただいま」「風呂」「ビール

「うん」「ごちそうさま」「おやすみ」ぐらいは喋るはずですが。これらの言葉を多数の夫婦に言ってもらっても、きっと数え切れないくらいに言い方になるでしょう。どんな夫婦にも、長年築き上げた会話の間があり、空気感がある。それは誰にも真似の出来ない、二人だけのオリジナル漫才作品なのです。

芸人の演ずる漫才は聞いてくれるお客様がいます。夫婦の会話の聞き手は家族や相手である妻、夫である。どちらにしても結局は笑って済ませることになります。人が人に惚れるとき、その要因の多くは相手の笑顔と信じています。多くの夫婦はお互いの笑顔に惚れあって一緒にになって家庭漫才を続けているのです。

しかし、老いて話し相手、聞き手の相方を亡くした人たちは、淋しいものです。ここ「望洋荘」に住む方々にも職員の皆さんが、夫婦漫才の相手になったり、聞き役の客人になって、「ハイ」の一言、「ありがとう」の一言の返事で、素晴らしい笑顔のみられる場であって欲しいと願っています。



夏。真盛り、気温は日に日に暑くなっています。しかし、ここ望洋荘には涼しい潮風がやさしく吹き寄せています。写真は望洋荘から見える豊間海岸です。いつもはサーフィンをしている人がいます。

『サマーフェスタ』開催のご案内

第一回 サマーフェスタ

～ 日々、いわき七浜の潮騒が聞こえる「ふるさに」に憩う ～
～ 少人数で構成された、まとまりのある家族的な生活空間で、
～ 安心と寛ぎとゆとりのある居住の場を提供しています。

～ 利用者様に外で食事、余興を楽しんでいただく ～

日時 平成17年8月28日(日)
午後1時30分～午後3時30分
場所 望洋荘職員駐車場
内容 職員による
フラダンス ジャંગら マツケンサンバなど

◎模擬店コーナー
焼きそば 綿あめ
焼き鳥 ポップコーン
フランクフルト かき氷
たこやき 各々食券1枚と引換え
※ 食券(6枚綴り)は受付にて500円で販売致します。

ジュース・ビール 各 100円
豚汁・おにぎり 無料サービス

お断り
・駐車スペースに限りがございます。乗り合わせにて、ご来
荘頂けます様お願い致します。
・模擬店コーナーの商品には、限りがございます。品切れの
際はご容赦ください。
・食中毒防止の為、食べ物の持ち込みまたは、お持ち帰り
はご遠慮ください。

『不在者投票』のご案内

九月十一日に「いわき市市長選挙」・「福島県議会議員補欠選挙」・「衆議院選挙」・「いわき市市議会議員補欠選挙」があります。つきましては、施設に投票所を設け不在者投票を実施する事に致します。もしご家族の方が、入居者様を指定の投票所に連れて行かれる場合など御座いましたら、八月二十一日(日)までにご連絡ください。ご連絡のない入居者様は、不在者投票の手続きを全員致しますので、よろしく願い致します。

不在者投票の日程についてはまだ未定ですが、九月の第二週になるかと思ひます。正式に日程が決まりましたら再度ご連絡申し上げます。

『じゃがいもを収穫』しました。

七月十四日(木)午後から施設菜園に栽培していた『じゃがいも』が収穫の時期となり、入所者様と共に芋ほりをしました。以前農作業をされていた方は、手さばき早く職員が圧倒されるほどでした。また近くに生えている雑草も引いていただき大感謝でした。



じゃがいもの他、きゅうり・なす・プチトマトも栽培しており、毎日収穫をしています。特にきゅうりは毎日多くの収穫があり、採れたてのきゅうりに味噌を付けて食べたり、漬物にして食べています。入居者様からも大変好評です。

『七夕』見学に行きました。

八月七日(日)午前中に平の七夕祭りを見学に行きました。まだ十時で人通りも少なくゆっくりと見学出来ました。



ちよんまげ医者と解体新書異聞 (その二)

須田 混

久之浜町中町、自在院の近くの、太平洋が見下ろせる場所に旧家村岡家がある。そこに解体新書の普及版と思われる絵図のみの巻物一巻が所蔵されているとのこと。解体新書といえば杉田玄白等による出版物であり、医学概論「医史」や解剖学の講義でしか聞かれないものである。しかも、それは書籍の上だけであり、実物にお目にかかるのは容易ではない。平賀源内、杉田玄白、司馬江漢等の活躍した一八世紀から一九世紀の息吹きを感じられると心踊らせて村岡家をお訪ねした。

和紙に認められた腑分け図(二〇枚綴り)一巻と村岡家の家系図を拝見させていただいた。ご当主である村岡敬子氏は、この解剖図の巻物を誰がいつ求めたものかは定かではないとのことであった。当家初代の村岡白龍(天保七年・一八三六年没)の繋がりで、能代佐竹藩から入ってきたものなのか、それとも、後の子孫の誰かが買い求めたものなのか。二代目宗逸の長男昌敦(この人物は笠間藩の御典医を代々勤めた渡辺家に養子に入り、自らも藩医として活躍)が明治時代に磐城へ運んできたという言い伝えは残っている。ただ、江戸時代後期のこの当事磐城藩の中に、笠間藩の分領が現在の神谷地区第六小学校付近に存在していた事実があるので、それ以前にこの絵巻が当地に流布していなかったという確証はない。

あれこれ文献等をあたってみると、解体新書、蘭学事始等々の著者である杉田玄白と奥羽(関藩)の一藩医であった建部清庵との往復書簡をまとめた「和蘭医事問答」の中に衣関白龍の名が登場してくる。杉田玄白と建部清庵の仲立ちをした建部塾の塾生であった人物である。この衣関白龍と村岡白龍が同一人物ならば大発見と思ったのであるが、残念ながら別人であった。村岡白龍は文化一四年

(一八一七年)に医者となり地域に貢献して天保七年(一八三六年)六月一七日に没。一方、衣関白龍は文化四年(一八〇七年)に他界しており同一人ではあり得なかった。

この秘蔵の巻物の「人体解体図」であるが、杉田玄白の絵図とは似ているが非なる部分もある。杉田玄白の「解体新書絵図」は、当時手に入れた洋書「ターヘルナトゥミ」の解剖図を模写させ、それに苦勞を重ねて人体の細かい臓器等に訳名を施したのであるから、顔貌は洋人のものである。方や村岡家秘蔵のものは、処刑された盗賊人の頸部に斬首痕のある邦人の顔である。次号「望洋荘だより八月号」に掲載する文章はこの解剖図の後書きであるが、この中に長谷川温という医者が同僚と共に、役所から許可を受け、心ときめかせながら腑分けに参加し、後学のためにその詳細を絵師に託して書き上げた、と表記されている。当事の医人が容易に経験することが出来なかった腑分けを実践出来たこと、玄白等の偉業を通して知り得たオランダ医学の素晴らしさを賛辞している。又、この中で、解剖によって死因を的確に把握することが、治療の要諦であるという言葉は、今日の我々も以って銘すべきである。想像するに、この解剖図は多くの医者に恩恵を与えたというより多くの患者さん方幸せを運んだであろう。

前述のように、現存するこの村岡家絵図は御典医であった昌敦が明治維新で幕藩体制が崩壊し、失職の憂き目を見、郷里久之浜に帰還する際持ち帰ったと伝えられている。白馬に跨がり笠間からの道すがら、戊辰戦争の傷痕生々しい貧しき人々に藩からの奉還金を施しながら歩いたという。結局は、「解体新書」の絵図ならぬ貴重な「解剖絵図」の巻物一巻以外は何も無かったとは何と豪気なことよ。

その後の昌敦は、現在の自在院の片隅に庵を結び、診療所を開設し、短い期間ではあったが「ちよんまげ医者」として地域の人々に慕われ、明治三六年三月二〇日この世を去っている。悠々自適の生活であったという。その後の村岡家の人々はそれぞれ町の行政に手腕を発揮したり、薬剤師や歯科医師等々として地域に多くに貢献寄与してきたことについては、私が今さら述べるまでもないことである。

次号「望洋荘だより八月号」につづく

久之浜通信「十三号」二〇〇一年七月 寄稿文より

介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介②⑩ & コメント集



介護士 府川 広介

はじめに自己紹介をさせていただきます。

府川広介・二四歳 魚座・血液型O型 神奈川県出身
好きな食べ物は納豆・等など、細かく紹介すれば
きりがないのでここで一息。

早いもので望洋荘に入社してから四カ月が経ちました。私は先に述べたように、今年の三月まで神奈川県に住んでいました。そして、四月から縁あって望洋荘に入社し、晴れて福島県民（いわき市民）になったのです。

これまでの四カ月で一番最初に戸惑った事があります。それは、いわき市（特に浜特有）の言葉です。思っていた程の「なまり」や「方言」はなかったのですが、利用者様と同僚の職員としゃべっていて、何もしていないのに何故か怒られている様な感じがしました。でも、それは別に怒っている訳ではなく、浜特有の多少荒めな言葉遣いというだけだったのです。不思議な事に現在では、私自身もその言葉遣いに馴染んでいます。

今では望洋荘の明るく穏やかな雰囲気にも慣れてきたので、これからは自分の味を出していきたいと思えます。まだまだ未熟者ですが、よろしく願っています。



介護士 坂口 恵美

望洋荘で働きはじめて四カ月が経ちました。初めは、何もわからず戸惑うことばかりでしたが、先輩方の一ツツ丁寧に教えて頂き、毎日楽しく仕事をしています。

毎日、利用者様が笑顔ですごくして頂き、少しでも多くの利用者様に「ありがとう」と言ってもらえる様、これからも頑張りたいと思います。

今月の言葉その⑩（倫理研究所編纂語集から）

気づいたことは天の声

（あの時やっておけば）と、後で臍をかむことが何度あるだろう。心にひらめいたことを即座に実行に移す。成（な）功（こう）者と落伍（らくぶ）者の違いは、わずかにそれだけの差なのだ。

『望洋荘』に住んでみて 第七話

望洋荘の各部門の内部の紹介をします。今月は「医務室関連」です。

私達医務室では、七名の看護師が勤務しています。医務室の隣には、静養室がありベット二床が常時準備されており、入居者の方が体調を悪くした時の安静に使っています。

一名の看護師は機能訓練指導員として適宜、リハビリ運動・歩行訓練等を行っています。医務室の主な仕事は、入居者の毎日の内服薬の管理、病院受診への付添い、入居者の健康管理、処置、居室内の環境改善指導等を行っています。又ご家族の方が安心できる様これからも頑張りたいと思います。



医務室へは、正面玄関を入り事務室前ロビー（二見ヶ浦通り）の左側にあります。医務室の中では、入居者様の服用されているお薬の管理をしたり、応急処置用の器具などの整備をしております。隣の静養室では、入居者様が急に具合が悪くなった時に対応する為にベット2床を用意しており、医師の指示で対応をしています。

編集後記

『望洋荘』便り
平成十七年七月一日発行
発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373
FAX (0246) 55-7255